

ことわざと体験を結び付けて、2段落構成の作文を書く

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

論理の展開を工夫して、筋道の通った文章を書くことができない。

■「小見出しの効果」について、肯定的又は否定的な意見を書く 「月の起源を探る」(光村図書3年)

「月を作る」という言葉が聞き慣れないので、面白いなと考えました。どうしたら月を作ることができるかなどの疑問が自然と出てきます。その後の「実験」という言葉も、実験なんて実際にできるのかと驚きました。たったこれだけの言葉で、疑問と驚きが出てきたので、個人的にとっても良い見出しだなと考えました。言葉の選び方がとても面白いです。(生徒作文)

考えを書き連ねることはできるが、接続語や段落構成が意識できていないので、論理の展開がつかみにくい文章になっている。

実践の概要

教材名 「慣用句・ことわざ・故事成語」

光村図書

目標 ことわざと体験を結び付けて、2段落構成の作文を書く(200字作文)。

- 内容
- ・ことわざとそれに込められた教訓について学習する。
 - ・選んだことわざに合う体験・エピソードを考える。
 - ・下書き→推敲→交流→清書する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容(単元名)		つまずきの実態
第3学年	慣用句・ことわざ・故事成語	論理の展開を工夫して、筋道の通った文章を書くことができない。
第2学年	論理をとらえて	筆者の主張に対し、根拠を明らかにして反論する(否定的な)文章を書くことができない。
第1学年	いにしえの心にふれる	根拠や理由を明らかにして、筋道の通った文章を書くことができない。

単元末の目指す姿

- ・段落の内容を整理して、筋道の通った2段落作文を書くことができる。
- ・文章を客観的に推敲したり、評価したりできるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

体験をはじめに書くAパターンと、体験後に書くBパターンを提示し、モデル作文をもとにどちらが効果的かを検討させる。

活動のねらい▶ 体験とことわざをどう関連させるかが鍵であることに気付かせる。

ワークシート

ここがポイント

- まずは、A・Bどちらのパターンで書く方が説得力のある文章になるか、自分の考えを書かせる。(左:ワークシート)
- その後、Aパターン、Bパターンそれぞれのモデル作文(右)を読ませ、文章の流れや構成を検討させる。これにより、論理的な展開・構成をより意識するようになる。

※Aパターン、Bパターンどちらが良かったか。

①具体的な体験・学んだこと。

②ことわざやその意味。

③具体的な体験・学んだこと。

④ことわざやその意味。

選んだパターン()の理由

例文① Aパターンの作文

う	し	っ	さ		ず	を	当	し	秋
い	た	て	が	一	出	た	の	祭	
う	。物	結	あ	船	さ	る	組	り	
こ	。会	局	る	頭	れ	大	み	の	
も	社	作	が	多	の	人	立	準	
も	に	業	ま	く	で	が	て	備	
團	社	に	く	指	ど	多	に	の	
係	長	指	運	四	ど	く	堅	日	
し	が	導	ば	す	う	お	り	、	
て	復	人	な	る	時	ら	出	僅	
い	存	が	い	上	間	な	さ	た	
る	在	か	と	る	が	ば	れ	ち	
か	し	か	と	と	か	良	た	中	
も	な	か	い	い	か	い	。だ	学	
し	い	を	こ	こ	ま	の	が、	生	
れ	は	を	と	と	ま	か	指	は	
な	。実	か	か	と	っ	か	導	、	
い	感	え	わ	わ	た	ら	み	こ	
。そ									

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

下書きの後、推敲が必要な箇所に付箋を貼り、気付いたことを記入しながら、班で交流させる。

活動のねらい▶ 下書き原稿を交流・推敲することにより、よりよい文章を書こうという意欲が喚起される。

ここがポイント

よい文章を書くためには、推敲が欠かせない。だが、自分で自分の文章を読み返すだけでは、どこが問題なのかがわかりにくい。そこで、付箋を用いて相互に評価し合う場を設定する。これにより、友達の良い点をまねたり、自分の文章の改善点を見つけたりできる。その際、「論理的な展開・構成になっているか」など、本単元のねらいに沿った視点を確認しておくことが大切である。

付箋を用いた交流



体験を後で説明にした方が説得力があるよ。

(期待される生徒の姿)

班活動を取り入れ、良い点や改善点を話し合わせることにより、良い文章を書こうという意識が高まる。また、構成の仕方によって説得力に差ができることを実感できる。

また、書き出し→結び→下書き→清書と段階を追って書き進めることで、書くことへの苦手意識が軽減される。